

横小だより

新潟市立
横越小学校発行
R3・10・15
臨時号



Eメール e407yokogoshi@city-niigata.ed.jp

URL <http://www.e407yokogoshi.city-niigata.ed.jp/>

《シリーズ》



第1回

Yokogoshi

校長

戸田 道治

先日、保護者の早川晃平様より、写真にある掛け軸を寄贈いただきました。書にある印章が、玄関の「養正」の額と同じであることに気付き、これは学校に縁のあるものに違いないと思われたそうです。

ちょうど私は、学校の歴史を知りたいと思い、北方博物館館長の神田勝郎様からいろいろ教えていただいていたところでした。

どちらの書も、書かれた方は建部遯吾先生。

建部先生は、明治4年に旧横越村に生まれ、旧横越小学校を卒業後は、横越小の教員もされたそうです。幼い頃から「神童」と言われ、その学才を惜しんだ当時の人々が、建部先生を東京で学ばせようと出資し合ったそうです。

東京では東京帝国大学に進学。その後は東大の教授として社会学という分野を切り開いて確立したとのことでした。

ウィキペディアにも建部先生のごことは詳しく紹介されています。社会学の学部を創設した折のエピソードとして、下のような事が載っていました。

第二次山縣有朋内閣のとき、ある政府役人が「日本の大学に社会学のようなものを置いてはいかん」と言った。山縣首相は「いったいどこで誰が社会学をやっているのか」と問うた。役人が「東京大学で建部という教授が担当してやっています」と答えると、山縣首相は「建部がやっているのか、それならいいじゃないか」と言った。（出典：ウィキペディア）

おそらく当時の役人は、「社会学」なるものが国家を揺るがす事態を招くのではないかと恐れ進言したのでしょう。それに対して山縣首相が発した言葉は、どれだけ建部先生への信頼が厚かったのかを物語っていますね。

神田館長様からは、旧横越校だけでなく、沢海校、木津校、小杉校の資料も貸していただきました。まだまだ紹介したい偉人やエピソードがあります。今後、何回かのシリーズにして紹介したいと思います。

* 先日、この掛け軸について新潟日報社から取材を受けました。

